○議長（稲葉昭宏君）　休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前　９時３０分）

○議長（稲葉昭宏君）　一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領良く行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受け質疑を続けてください。

質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入ってください。

それから、固有名詞等は発言に十分注意してください。

なお、定例会におきまして、町長に反問権を付与します。

最後に、傍聴者の皆さんに申し上げておきます。議場内ではお静かにお願いいたします。

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君）　日程第５、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇　藤　井　　要　君

○議長（稲葉昭宏君）　通告順位１番、藤井要君。

（５番　藤井　要君　登壇）

○５番（藤井　要君）　それでは、通告に従いまして壇上より一般質問を行います。

今回のリオオリンピックは日本選手の活躍でおおいに盛り上がりました。私は、女子レスリングの初日で残り時間数秒の中で最後まであきらめず攻め抜き、金メダルを獲得した選手たちの姿を見て、胸が締めつけられるような感動を味わいました。

町政の中で、魑魅魍魎（ちみもうりょう）の世界を感じる時もありますが、選手たちの最後まであきらめないやり抜く姿を見て、圧力や不正に負けない精神力を持ち、松崎を変えていく精神力と感動をもらったオリンピックでした。

また、地球温暖化の影響でしょうか、近海で大型台風が発生し、多くの被害をもたらすようになってきています。多くの災害に学び、改めてまた災害に強い安心・安全なまちづくりの構築を望むものであります。

今回の私の最初の質問は、人口減少の抑制に対する対策についてであります。

町長は、観光流動人口等により、以前より7000人のまちづくりを提唱していますが、2040年の日本創生会議推計では4448人、町推計では6294人としています。数字の上においても大きな隔たりがありますが、町長はどのような具体的な施策により7000人を維持していくのか、お伺いいたします。

次に、地域おこし協力隊について質問いたします。地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域に生活の拠点を移し、地域ブランドや地場産品の開発など地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民への生活支援などを行い、その地域への定住・定着を図る取り組みと理解しています。

当町では、28年度に２名の隊員が３年間の期間満了を迎えますが、29年度にも新たに導入するのか。導入する場合は導入目的を明確にし、産業の担い手と狙いに沿った活動の設定が必要と考えますが、町長のご見解をお聞きいたします。

次に、くらし・環境整備について質問します。以前より学校の統合により廃校になった校舎の利活用が問題になっています。岩科幼稚園舎も28年度に中川園と統合し、29年度には新たに岩科に松崎幼稚園が新築されます。結果、２つの園舎が空いてしまいます。岩科園は借地であることから今後どのようにしていくのか。

また、中川園近辺には聖和保育園、下田警察署松崎分署も建設されます。町長は、これらの施設と三聖苑、旧依田邸と結び付けた公共文化観光特区との構想もあるやに感じますが、今後空園舎になる中川園の利活用をどのように考えていくのか、お伺いいたします。

次に、町民の健康増進対策について質問いたします。町では、町民の健康対策として健康診断、俳句館での健康マルシェ、Ｂ＆Ｇでの健康水泳などに取り組んでいますが、最近女性の方々からインストラクターなどの指導による器具を使ったスポーツジム的場所の設置を望む声が聞こえていますが、町民の健康増進と福祉を考えた施設の検討をできないものか、お伺いいたします。

次に、有害獣対策について質問いたします。有害獣の駆除に対する法律も変わり、場合によっては夜間駆除も可能になってきました。当町において狩猟組合の方々の高齢化などにより駆除対策が年々難しくなってきています。最近では、イノシシ、シカの稲作被害が出てくるなど農業従事者にとって経済的、精神的重荷になっています。

昨年度の一般質問の中で、県とも協議して対策を取っていきたいとの回答を得ていますが、

その後、町ではどのような対策を取ってきているのか伺います。

次に、地域経済の活性化と観光振興について質問します。町では、地域振興対策の一環の中で、旧商店街の空き家店舗対策として「ふれあいとーふや」を拠点に富士ゼロックス、地域おこしの皆さんとまちおこしをしていただいております。

以前より私は、商店街の活性化について質問を行ってきましたが、当局の具体的な対策が見て取れません。７月31日に函南町で行われた美しい伊豆創造センター１周年記念フォーラム基調講演を聞きましたが、松崎の魅力をどのようにして伝えるのか、松崎ブランドをどのようにして作っていくのか、今の松崎の足らないところ、課題が少し見えた気がしました。

松崎町は温泉の町でもあります。そこで、今回は、町で計画している新浜通りの足湯に加え、常盤橋消防詰所跡地の川の流れを見ながら松崎に浸る場所をつくる。そんな足湯を設置することはできないか。再度質問いたします。

次に、旧依田邸と当町との関わり、連携について質問します。依田邸は昨年ＮＰＯ伊豆学研究会などが運営し、多くの行事を行っています。また、最近では東京五輪開催時に国内外の人たちが静岡の魅力を県内で体験できる文化プログラムを実施するのに向けたモデル団体に選定されたと報道されました。また、懸案であった温泉についても使用可能な状態となり、中川三聖苑を中心とした観光文化の構築が進んできたのかと感じておりますが、旧依田邸の維持管理にはまだまだ問題が山積していると感じています。依田邸は、地域経済の活性化に向けて必要なものであると考えますので、町はこれらの問題とどのように向き合っていくのか、質問いたします。

これにて壇上からの一般質問を終わります。

（町長　齋藤文彦君　登壇）

○町長（齋藤文彦君）　藤井要議員の一般質問にお答えします。

１．人口減少の抑制に対する対策について。①「松崎町の将来人口の推計と目標を見ると、2040年には日本創成会議推計で4448人、町独自推計で6294人としているが、人口減少抑制に対する具体的な重点戦略の内容はどのようなものなのか」についてでございます。

平成28年３月に策定した「松崎町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」では、人口減少を抑制するために若者世代の転出超過動向を抑制するとともに、町の立地基盤を活かした産業振興と連動した人口定住対策と新規参入及びUターンなどさまざまな形で、転入を促す取り組みが必要としており、「環境・文化の循環」、「ひと・経済の循環」、「子育て・教

育の循環」、「健康長寿・安心社会の循環」の４つの循環を回しながら戦略を進めることとしております。

具体的には、「環境・文化の循環」では、なまこ壁の実態調査・活用計画策定などを行う 歴史的ふる里整備事業、「ひと・経済の循環」では、過疎地域等自立活性化推進事業による桜葉の振興事業や移住・交流拠点施設利用促進事業、静岡大学研究生のインターンシップ受入れなど、「子育て・教育の循環」では、入学・就職時の節目、節目の子育て支援事業（祝い品支給）、「健康長寿・安心社会の循環」では、公民館の避難所機能強化として地区公民館耐震改修促進事業などを進めております。

②「地域おこし協力隊５名のうち２名が契約満了になるが、平成29年度も募集するのか」についてでございます。

地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方に、都市住民など地域外の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みとして、総務省が平成２１年度から始めた制度です。

協力隊員の活動期間は概ね１年以上３年以下で、地域おこし協力隊員の活動に要する経費などは特別交付税により財政支援が行われ、平成27年度で全国673団体、2799人が活動しております。

町では、平成23年度に静岡県で初となる地域おこし協力隊員を１名採用し、３年間石部棚田の保全活動に当たっていただいたところです。

１期目の隊員の任期終了後、平成26年度に２名、平成27年度に２名、平成28年度の１名を採用し、１名は石部棚田の保全活動などを現地で、残りの４名は「ふれあいとーふや」を拠点施設として、グリーンツーリズムや「日本で最も美しい村」連合関係、スポーツツーリズム、映像による町のＰＲなどの活動を行っております。

地域おこし協力隊は、平成28年度で２名が任期終了になることから、平成29年度においても２名を募集し、地域おこし活動に取り組んでもらうことで考えております。

２．くらし・環境整備について。①「平成28年には聖和保育園が、29年度には松崎幼稚園が新たに建設され、教育の充実が図られるが、空き園舎となる岩科・中川園の今後の活用は」についてでございます。

幼稚園は、津波浸水から園児を守るため、平成24年度から４園を暫定的な対応で中川園と

岩科園２園に統合したものですが、来年４月からは新園舎での教育が開始されますので、それと同時に中川園と岩科園は廃園することになります。

その後の園舎の活用については、現時点では決まっていませんが、全国の事例では廃校になった施設を体験交流施設や子育て・高齢者の集う施設など様々な形で活用していますので、それらも参考にして、公共施設配置検討委員会でどのような活用ができるか検討をしていきたいと考えております。

②「健康増進に向けた運動機能向上などの取り組みがなされているが、インストラクターがいるスポーツジム的な施設の要望も出ているので検討することはできないか」についてでございます。

勤労者体育館の２階にトレーニングルームがあり、器具も整備されておりましたが利用者もなく現在に至っております。スポーツ推進委員が中心となって構成されている「ウエルネスまつざき」では今年度の事業としてフィットネス教室の開催を計画しております。スポーツインストラクターの有資格者が住民を対象にランニングマシンや腹筋器具などを使い健康増進に向けた取り組みが行われます。

町としてもこれらの事業に協賛し、健康増進の一助として支援していきたいと考えています。

③「耕作地や作物を荒らす有害獣、農業従事者に農業離れな苦痛を与えて耕作放棄地にもつながる要因と考えるが、妙案が見つからない中で当町は有害鳥獣対策にどのように取り組んでいくのか」についてです。

野生鳥獣が集落内に出没するのは餌を食べにくるためで、集落内の畑に野菜などを廃棄しないことや、隠れ場所になる荒地をつくらないことが重要で、それでも出てくる鳥獣を捕獲することが基本となります。

防護柵や電気柵についても効果がありますが、設置してあるものを確認すると、高さが不足しているものや隙間があるものも見受けられ、適正に設置する指導も必要かと思われます。また、県が発行した「鳥獣被害対策の進め方」というマニュアルを希望者に配布することや、集落全体で対応することで効果が上がることもありますので、研修会等も求めがあれば開催したいと思います。

なお、予算措置としては平成27年度当初に396万2000円の鳥獣被害対策費を計上しましたが、平成28年度はドックマーカーや、連絡用のデジタル無線機などの購入費400万円を含む828

万2000円の有害鳥獣対策費を計上するとともに、捕獲頭数の増加に対応するため、今回の補正予算で100万円の捕獲報償金を追加計上したところです。

３．地域経済の活性化と観光振興について。①「松崎商店街空き店舗対策と新浜通りの足湯設置の事業進捗状況は」についてです。

商店街は、経営者の高齢化や後継者不足、大型スーパー、コンビニエンスストアの進出のほか、消費者の買物行動の多様化など、社会経済環境の変化により、商店数が減少し、空き地・空き店舗が多くの地域で深刻な問題となっております。

当町においても平成26年の商業統計では、商店数は130店舗で、平成19年の166店舗と比較して36店舗の大幅な減少となっています。

こうした中、町では平成27年度に地方創生先行型交付金を活用し、東区の空き家店舗をまちづくりの拠点オフィスや外部人材にワーキングスペースとして活用できるよう整備し、本年７月に「ふれあいとーふや」としてオープンいたしました。

また、商店街の空き店舗対策として、商工会や観光協会、地元有志で、現在空き店舗の間借り出店について検討し、所有者との調整も行っていると伺っています。

なお、平成28年度に当初予算で計上した足湯整備工事は、新浜通りの元ポケットパークへ足湯を整備し、観光客の商店街への回遊性や賑わいづくりを図るもので、現在、ポケットパークの土地所有者や地域団体と協議をしているところでございます。

②「ときわ橋横の消防設置跡地への足湯設置に向けて再検討できないか」についてです。

消防施設跡地に足湯を設置することにつきましては、平成24年９月議会において藤井議員からご質問をいただき、回答したところですが、今回再検討できないかということですので、改めて回答いたます。

中瀬邸前の消防施設跡地につきましては、国有地もあり、町有地になっている土地も消防施設敷地としての利用を確約して国から購入していること、温泉本管が前の道路を通っていないため取り出しに費用がかかること、交通安全上の問題、管理体制の検討が必要なことなどから、現時点でも跡地への整備は難しいと考えております。

なお、足湯につきましては、伊豆文邸横に「伊豆文の足湯」、明治商家中瀬邸内に「中瀬の足湯」が整備され、また先ほどご回答いたしました、新浜通りの足湯も今年度整備がされることになっておりますので、先ずこれらの施設の活用を積極的にＰＲしてまいりたいと考えております。

那賀川を眺めながらの足湯につきましては、要望の場所以外で適地があり、管理体制などが十分に整うのであれば、検討することはやぶさかではございません。

③「大沢温泉ホテル（旧依田邸）の保存、活用について松崎の歴史的財産として、行政も積極的な協力を行っていくと考えているが、ＮＰＯ伊豆学研究会との連携体制はどこまで進んでいるのか」についてです。

大沢温泉ホテル（旧依田家）につきましては、多額の負債を抱え、競売により平成27年９月に伊豆の国市のＮＰＯ法人「伊豆学研究会」と静岡市のＮＰＯ法人「くらしまち継承機構」が共同で落札したことは、議員もご承知のことと思います。

その後、12月に静岡県、伊豆地域ならびに松崎町の貴重な歴史文化財である依田家住宅等を適切に保存することを目的に、「松崎町依田家住宅等保存活用推進協議会」が設立され、依田家住宅の保存と活用が協議されています。

協議会には、両団体のほか、町、議会、振興公社、大沢区、団体関係者14名が会員となり、顧問に大学教授など４名、オブザーバーとして静岡県が入っております。

なお、両団体より、施設の維持管理が困難なため、町に購入してほしい旨の要望も出されております。

以上でございます。

○５番（藤井　要君）　一問一答でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君）　許可します。

○５番（藤井　要君）　人口減少の関係ですけれども、町は４つくらいの大きな基本方針を立ててということですけれども、私はいつも一般質問等でやっている・・、人口を増やすのには教育がもとであるというようなことで、私は常々言っているわけですけれども、今回の質問に対しまして、考えていたら、町長はさすがだなと思ったことがあるんですよ。町長が、５月と７月に・・、これは観光になりますけれども、経済活性化のためというんでしょうか、海外に視察に行った。そして副町長を、教育に詳しい指出副町長をここに据えたということは、常々私が思っている教育から人を育てる、町の活性化、人口を増やすんだというようなことを考えたんじゃないかなと思って、さすが、町長、先を見る素晴らしい町長だなと思ったわけですけれども、町長が、いま言いましたその４つの基本方針の中でやっぱり私は、この前も言いましたけれども、町がほかの町と松崎と比べたら、やっぱり大きな町にはかなわないわけですよね、お金の関係で。

例えば教育費とか、そういうのを無料にするといったら松崎はできない。そうした場合に、じゃあ、松崎町で人口を増やすにはどうするかということになると、そういうお金じゃなく、教育とか子どもたちを地域ぐるみで・・、よく町長は言いますよね。おいしい米は立ってと言いますよね。ですから、そういうふうに地域で子どもたちを育てる。大きな町ではできないことをやる。そういうことをやっぱり細かくやってもらう。それに対して、やっぱり副町長を選んだということは、素晴らしいと思います。

そういうことで、町長、いろいろ基本はあるわけですけれども、例えば、高校までの医療費の無料化とか、授業料の免除とか、それは後々国がやるものだと私は思っているんですよ。ですから、できないものを町がやる。私は、いま河原をきれいにしたりとか、ボランティアの方と一緒になってやっているわけですけれども、そうしますと、子どもたちが魚釣りとかに来るわけですよ、あそこで遊んだりとか。

ですから、そういうのをやっぱり地域で高齢者と子どもたち、父兄が一体となったまちづくり、これがほかにはできないまちづくりだと思うんですよ。それが、人口が増えていくもとになると思うんですけれど、その点に対して町長はどう思いますか。

○町長（齋藤文彦君）　私はいつも言いますけれど、国のもとは人、人のもとは教育、教育は未来への投資だと思っていますので、松崎町は本当に静岡県で一番人口の少ないところで、これから本当に活躍していくには教育が一番大切だなと思っています。シンガポールのリー・クアンユーさんがあれだけシンガポールを活性化させたのはやっぱり教育の力だと思っていますので、教育を重点的に据えていきたいなと思っています。

それで、いろいろ松崎町を元気にするのがあるわけですけれども、今度松崎の子どもたちが松崎の未来をどう考えているかというような発表会もありますけれども、そのようなことで、松崎の町をどういうふうに考えているかというのが見えてくるのかなと思っています。

そして、松崎町を本当に一番・・、流動人口を増やして雇用を増やすというのがやっぱり一番の近道は、松崎の桜葉が生産日本一であるわけですけれども、これを佐藤議員さんがいろいろ努力して、どういう実態かもわからなかったのを63人集めてくれて、組合ができたわけですけれども。これの補助金で1000万円ついて一生懸命やっていますけれど、これがうまくできてくると若い人たちも「桜葉だったら結構稼げるぞ」というような人たちが増えてくると思うし、子どもたちも本当に松崎の桜葉は日本一だというので、本当に胸を張っていけるような町になればいいなと思っているところでございます。

○５番（藤井　要君）　よくテレビなんかで、これはフランスの例でしたけれども、最近１人生まれると1000万円くれる。２人産めば2000万円になる。そうすると、家庭に入っているお母さんが仕事をしないで子育てできると・・、フランスは増えてきました。

日本でもほかのところは、１人産むと100万円、２人目は200万円とか、そういう町もあります。先ほど言いましたように、じゃあ、お金で勝負したら松崎はもちません。ですから、私は、そういう地域全体でうまい方法がないかと考えることだと思います。私の個人的な意見ばかり言ってもしょうがないですから、まずそういうのを教育長さんとか、また役場の職員さんがいろいろいますので、考えて何とかして、お金じゃない心の・・、松崎町・・、それで育てると、たくさん産んでもらう。産んでもらっても「後が楽だね。松崎は」とそういう町にしてくれるように考えてもらいたいと思います。

桜葉関係は、「佐藤議員が・・」と言いましたけれども、長嶋議員なんかと一緒に私たちも伴議員も含めてですけれども、下田へ行ったりとか、あっちに行ったりとか、その1000万円の使い道、どういう方法がいいとか、農林事務所へ行ったりとか、いろいろなところに行ってやっています。だから、そういうのもやっぱり個々の議員さんの名前だけではなく、やっぱりみなさん議員さん一生懸命やっているわけですから、それは認めてやってもらいたいなと思います。

教育の問題はまた・・。

○町長（齋藤文彦君）　佐藤議員の名前を言ったのは非常に申し訳ないわけなかったわけですけれども、本当に長嶋議員、皆さん方が協力してくれているのはわかっているわけですけれども、非常に最初のスタートがなかなか難しいところがあったもので、いろいろお骨折りいただいたということで名前を出したわけでございます。

○５番（藤井　要君）　それで、地域おこし協力隊の関係ですけれども、今回また２名、29年度募集するということですけれども、週刊アサヒか何か忘れましたけれども、地域おこし協力隊のいろいろな悪いところ、いいところが出ていましたよね。見ていると思いますけれども。私は募集してもらって、町を活性化してもらいたいということがあるわけですよ。町の活性化とかというのは、よそ者、若者、ばか者だそうですよ。それが活性化できるというような・・・、それを考えると、もう地域に根ざしてずっといると何も変化がない、考えが固まっちゃっているよと、そういうようなことで、よそ者、若者、ばか者と言われているんだと思いますけれども・・。

前に町長が、地域おこし協力隊を募集するのに、もう何々をやってくれということになるとなかなか来手がいないよということでしたよね、町長の答弁。隣の西伊豆町さん、前にも言いましたけれども、鰹節をやってくれる、陸わさびをやってくれる。そして下田に行きますと、下田市は２人が今度森林組合に入りましたよね。入りましたというか、森林組合に委託されたようなものですけれども、それで森を守るとか、山を守るというのをやっているわけですよ。

今度募集するということですので、私は、後からの問題があるわけですけれども、先ほど健康のインストラクター、そしてもう１点、耕作放棄地の関係、これは一緒に・・、私の考えとしては地域おこし協力隊、そういう人たちに手を挙げてくれないですか。松崎はこういう人に来てもらいたいんですよというようなことでできないかということを願っているわけですけれども、町長が誰でもいいやと来てから考えようと、なんかお前っちやってくれというのではなく、そういう方向性を打ち出してやってもらいたい。

これ、健康の関係を先にちょっとやらせてもらいますけれども、そうしますとインストラクターがなかなかいないということになりますよね。そうすると、そのインストラクターのような方、私たちは、松崎町は健康維持で募集していますよ、来てくださいよと言って、もし若い人たちでもいい、来ますと・・。私なんかもそうですけれども、健康診断をやると「メタボですよ」と言われるわけです。マラソンをした方がいいですよ、歩いたほうがいいですよ・・、なかなかこれは１人ではできないんです。そしたら児童館でしたか、２階に器具があると言ったじゃないですか。そういうところが場所的に、そういう人たちが来て、また、あなたはこういう運動をすれば・・、１週間こういうことをやりましょうとか、そういうのをやれば、かなり人が集まるんじゃないかと・・。いまカーブスなんていうのを・・、日本全国に1600とかありますよね。好きな時間に何回でも来ていいと。これはなんか6000円位加入金を払うみたいですけれども、そこまではいかなくても、そういうような人を地域おこし協力隊に募集したらどうかと考えますが、それに対して町長、どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　松崎町もそれなりにある程度こういう人を欲しいと言って要望しているわけですけれども。私は、地域おこし協力隊は、いま本当に定住・移住というのが叫ばれていますけれども、私は定住・移住の先駆者といいますか、アンテナだと思っているわけです。いろいろ私は地域おこし協力隊の皆さんとかなり話をするわけですけれども、話をしていて、自分は松崎町のこのためにやってきたけれども、やっぱりその地域とうまくいかない

なとか、松崎町とうまくいかないなというようなことが結構あるようなことを聞くわけですけれども。お前たちはそんなことを言わないで、３年間という助走期間があるんだから、この３年間に松崎町で生活できるためのノウハウをこの３年間お前たちはちゃんと考えろと、それで役場を利用しろ、おれたちを利用しろ、町を利用しろと言っているわけです。

それで本当に３年間経って松崎町で生活できればいいなと思っているわけですけれども、話をしていると非常に何と言いますか、住んでいくといろいろ自分の考えていることとちょっと違うなというところがあるなという話もございますので、地域おこし協力隊がもし松崎に来た場合は、３年後には本当に松崎で生活できるようにちゃんと見守っていきたいなと思っているところでございます。

それで、いま松崎町には地域おこし協力隊がいるわけですけれども、これは名前を言ってもいいのかな。

○議長（稲葉昭宏君）　いいです。

○町長（齋藤文彦君）　有馬君、棚田で専従して３年目になるけれども、石部に残ると思います。野口君もグリーンツーリズムと美しい村をやって、これもたぶん大丈夫だと思います。いま野中君がスタンドアップパドルで今度９月11日に大会を行いますけれども、これをうまく利用してスポーツを・・、先ほど藤井議員が言いましたようにこれとうまく連携して、何かうまくできないかなと思っています。また、伊藤君はいろいろな商品開発をやっていますし、村松君は映像をやっていますので、それなりの目標を決めて一生懸命やっているところですので、本当にこの人たちが松崎の力になるようにこれからも力を入れていきたいと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　ちょっと申し上げます。ただいまの固有名詞の関係ですけれども、協力隊の名前は広報にも出ていますし、町民の方にはそういうことでお知らせしてありますから、議会で固有名詞を出してもそれは許可します。

○５番（藤井　要君）　先ほど、週刊アサヒですか、いろいろ地域おこし協力隊とんでも実態なんていうのが出ていますけれども、やっぱりバカにされないじゃないですけれども、今いる人たちをばかにしているんじゃないですよ。一生懸命やっていることも認めます。

ですから、あまり松崎町は管理があまくてちょろい町だよなんて言われないようにお願いしたい。

続けてやりますけれども鳥獣害の関係。これは私も地域おこし協力隊で協力できないかな

と思っているんですよ。先ほども言いましたけれども、なかなかイノシシ、シカを減らすということができていない状況であるということになると、狩猟組合というか、やっている人たちとちょっと話す場合もあるわけですけれども、やっぱり獲れるか獲れないかわからないものにそんなに町が一生懸命やってくれと言ったってなかなか休んでまでは出られないということになりますと、もう少しお金を上げて、１頭獲るといくらというのを・・、先ほど今回も100万円とか、町長は助成金を上げると言いましたよね、総額で。

ですから、そういうふうに目に見えるように上げてもらうということと、いろいろな機械もそうですけれども、だんだんと充実しているということですけれども、３～４年前だったか、ちょっと記憶が定かではございませんけれども、前に、緊急雇用対策というようなことで農協なんかが３～４人入ってワナを仕掛けてもらって巡回してもらいましたよね、狩猟組合の方が。

そういうのを私は地域おこし協力隊で募集して、これは名前なんかは別にあれですけれども、例えば里山保全隊なんていうようなことで地域おこしの人が来て、そこでワナを仕掛けて、それから順繰りに回っていく。３年間あるわけですよね。そういう中で、そればかりじゃなくて、やっぱり森林の保全なんかも見て回ってくれたりとか、そして３年・・、例えば３年後だとしますよね。それを終わった後、区の田んぼとか畑が荒らされなくなったいうのになったら、引き続いてその人に３年過ぎても、これくらいの補助を出すから見守り隊を続けてくれないかとか、そういうこともできるんじゃないかと私は思っているんですよ。森林組合なんかでも、いまワナもバケツくらいの大きさで穴を掘って置いておくと、そうすると、そこにかかると・・、これは１個２万円位のあれもありますけれども、課長なんかにその資料をお渡ししましたけれども、そういうこともできるんじゃないかと思うんですよ。

ですから、町がいま必要としている、町の人がいやがることを地域おこし協力隊に押し付けるというのもなんですけれども、そういうのを第一に出して募集するという考えで、そういう私が言った今のような考えはできないのか、ちょっとお考えを・・。

○町長（齋藤文彦君）　少ないところは課長に答えてもらいますけれども、今日新聞を読んだら、西伊豆町が地域おこし協力隊を鳥獣害対策にあてるというようなことが出ていましたので、私もそれもありかなと思うわけですけれども。鳥獣被害対策というのは、非常に今までやってきてなかなか難しいわけですけれども、県に言わせると、伊豆半島に住んでいるシカが800頭から1200頭が適正な数だと。それが今は２万1000頭いるということですので、9000頭

までにしたいということで一生懸命やっているわけですけれども、なかなかできないわけでございます。やっぱりそれは、問題はやっぱりイノシシとかシカが住む森を本当に整備して、ある程度イノシシ、シカが生活できるようにすることが一つと、やっぱり後は防御して完全に作物を取らせないようにすると、そして、もう一つはやっぱり猟友会に頼んでやってもらう、この三段論法しかないわけですけれども、なかなか難しいわけで。松崎町が徹底的にやったらほかのところに逃げていくから、１市５町が固まってやっていかないことにはなかなか・・、賀茂郡が固まってやっていかないことには、なかなかうまく進まないと思うので、これは、私は賀茂郡の町長会の会長をいまやっていますので、その中でいろいろ話してみたいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君）　産業建設課長はいいですか。

（藤井議員「時間がなくなりますので」と呼ぶ）

○５番（藤井　要君）　鳥獣害の関係、町長も考えがあるということですので、地域おこし協力隊・・、先ほど言った巡回で回れるような、そんなのも考えてやってください。そして、農作業をやっている人が「被害がなくなったよ」と、そういう安心なそういうのを与えてやってください。

くらし・環境の中で、幼稚園の跡地の関係、岩科園は借地ですよね。ですから、借地をどうしていくのかなんて思っているんですけれども、借りて、例えば高齢者のそういう集まる場所とか、コミュニティホールみたいなものをつくったりとか、例えば若い人たちが、よそから芸術家なんかが来て、そこでいろいろなものづくりをやるとか、そういう場所にするのはいいと思う、賛成なんですけれども、借地なんですよね、岩科が。

そうすると、期限がいつまでかはわかりませんけれども、このまま借りていくのか、それとも、いま言った有効活用があるよということでやるのか、借地で期限がくるから返すのか、その辺の考えをお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　空いたら福祉避難所になるわけですけれども、いま松崎町は、28年度で松崎町公共施設等総合管理計画策定業務委託というのをある会社にお願いしまして、町が保有する公共施設等の全体の現況、課題等を整理し、総合的な長期的な視点から計画的な施設の管理など基本的な考えを取りまとめるということでお願いしてあります。これには、公共構造物、役場、学校施設などを含む91施設、道路約240㎞、橋梁、上下水道、河川等があるわけですけれども、やっぱり耐用年数は何年あるのか、減価償却の耐用年数はどれくらいと

か、耐震性はどうかとか、いろいろあるわけで、こういうことをちゃんと調べてもらって、公共施設等整備検討委員会でちゃんと検討していきたいなと思っています。

それで、今これを本当に松崎の残っている施設をこういうことにしたいなということでちゃんとやりたいなと思っています。

○５番（藤井　要君）　じゃあ、あと１点だけ質問して、次の方に入りたいと思うんですけれども、岩科園は借地契約は何年位で終わるんですか。

○教育委員会事務局長（石田正志君）　すみません。いまちょっと資料が手元になくて、後でよろしければ、後ほど回答させていただきます。

○５番（藤井　要君）　せっかく残ったものが有効活用されないで、そのまま朽ちていくようなことがないようにしっかりとお願いしたいと思います。

次に、商店街の、地域経済の活性化ですけれども、前にも商店街の空き店舗はまだ検討中ということですけれども、私がやってから半年位経っていると思うんですけれども・・。

そして、この前の時には、大阪屋さんの跡地あたりなんて言ったんですけれども、やっぱりそういうところを早く・・、今回もあれがありますね。10月になりますと、美しい村の関係があります。そこら辺も通るかもしれないけれど、シャッターが閉まっていると私は格好が悪いと思うんですよ。やっぱりそういうところをスピード感を上げてやっていく。

この前、企画観光課長ですか・・、そうしたところが、私は子どもの絵を飾ったらどうかなんて言ったら、ほかの商店街には３つくらいありますよなんて、そういうことを言いましたけれども。やっぱり人が集まると賑わいがでてくるというようなことで、空き店舗を、私は子どもたちの場に・・、例えば、絵を飾るのももちろんそうですけれども、観光案内をやったりしてもいいんですけれども、マンガとか・・、私の家にもマンガなんかがあるんですよ。ほかの家にもあると思うんですよ。いらなくなったマンガ、捨てるのに困るようなもの、そういうものをくれる人は寄附してくださいと言って、そういう店舗というか・・、借りたらですよ。そういうところに置く、そうすると子どもたちがマンガを見に来る。マンガばっかり見に来るといってもおバカさんにならないようにちゃんとそれは教育長もいるわけだし、ここにいますので。そういうことで町を賑わす、家の中でピコピコやったりとか目が悪くなるとか、そして友だちづきあいができなくなる。そういうのを解消できるんじゃないかと思うんですよ。

まだ検討中というようなことですので、ぜひとも子どもたちを外に出す。そして、先ほど

言いましたように、釣りをやるようになったりとか、山に登るようになったり、自転車であっちこっち行動範囲が広がったと・・、都会にはない、松崎に来れば・・、なんかよそから来ているお母さんだっていますよね、松崎じゃなくて。環境がいいからとか、そういうお金じゃなくて、そういう自然を使った教育の場づくりができないものかと・・。

私は、自分の考えでそんなことばかりしか言いませんけれども、ちょこっとそんな考えはできないか、お願いします。

○町長（齋藤文彦君）　私は元商工会の会長ですので、やっぱり昼間松崎の商店街を歩いて、夜も歩くわけですけれども、非常に心が苦しくなってくるところがありまして。藤井議員にこの前、前回ですか、言われて僕らもここに入っていますので、いろいろ商工会とか観光協会とか、町の担当者にいろいろ話をしているわけですけれども、少し動き出しているような感じがしますので、なかなか藤井議員のとおりにいかないと思いますけれども、ぜひ活用して、松崎の商店街に人が行くような感じ、子どもが集まるような感じにしたいなというのは同じ気持ちですので、進めていきたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君）　藤井君、時間を延長しますか。

○５番（藤井　要君）　してください。

○議長（稲葉昭宏君）　５分延長します。

○５番（藤井　要君）　次に、足湯の関係ですけれども、これは新浜通りの所ですね。名前を言っても大丈夫だと思いますけれども、控えますけれども、金魚があって、ピエロのような噴水が出る所ですけれども、そこを、「まだ町はやってくれないんですか」と言ったら、「私らは貸すつもりでいつもいるんだよ」ということを言っているんですよ。

ですから、早くやってくださいよ。それで、予算的には、あれは200万円位を付けてありますよね。まだ検討中ではおかしいと思いますよ。じゃあ、それから先にいきましょうか。短い時間ですけれども・・。

○企画観光課長（山本　公君）　当然予算で付けてありますので、やるということの中で、所有者と管理がいずれにしても必要になってきます。その体制を作るべく協議をしているということで、それをつくることによって回遊性とか賑わいをつくっていきたいと思っています。至急それは進めさせていただきます。

○５番（藤井　要君）　本来でしたら、美しい村ができるときにはもうできているのが私は理想だと思いますけれども、これはしょうがないですね、もう時間がないですから。10月６日、

７日、８日くらいでしたか、これはもうできないでしょうから、そういう点はしっかりやってもらいたい。

そこの白井さんへ行くところの川を眺めた足湯、これはいま言った温泉のいろいろ経費がかかるよということですけれども、先ほど言いました美しい伊豆創造センター１周年記念のフォーラムに行って、じゃあ、松崎は何が・・、インターネットでアクセスしたという時に松崎は何が売りなの、何がブランドなのと言った時に何もないみたいな・・。

創造祭に行った時に、静岡県立大学の教授が前に言ったんですけれども、京都、大阪、沖縄、これにアクセスした時には、写真なんかで京都と言えば清水寺だとかいろいろ、金閣寺だとか、そういう写真がいっぱい出てくる。沖縄に行けば海の家の写真が出てくる。北海道だったらラベンダーだとか広い・・・、そして片一方でいきますと、群馬だとか埼玉といったらもう地図が出てくるだけ。写真なんかない。静岡県はと言ったら、静岡県は写真と地図が半分ずつでしたよ。そうすると、静岡県はまあまあのところをいっているのかななんて・・。

ですから、温泉、松崎、そういう売る、足湯。「松崎に来ると足湯があちこっちにいっぱいあるよね」「いい所があるよね」と、そういうようなことで私は足湯を・・、そんなにお金のかかった足湯、立派なものをつくれというんじゃないですよ。そういうので松崎を売ったらどうかなという発想があったんですよ。そうしたら町長は、あそこじゃなくても川を眺めるいい所があれば足湯をつくるということですので、皆さん議員も町民も一緒になってやっぱりそういう温泉だったら、松崎に来たら、「楽しかったね」「足湯に入って、川を眺めながら一句浮かんだね」なんて、そんな町にしてくださいよ。お願いします。

あと時間が４分ということになりますけれども、最後の大沢温泉ホテルの関係。これは、私が一般質問を上げた時にはまだ大沢温泉ホテルが売りに出るよとか、買ってくださいよという話はありませんでした。そういう中で、先ほど町長が冒頭で、いま買ってくれないかというような話があるということで、私は買う方に賛成なんですよ。でも、買うのには、やっぱり町民の皆様が「なぜ買うのか」と「お荷物になるよ」と毎年1000万円だとか、そういうのが出ていて。じゃあ、今度は福祉とかの面でできないじゃないかと言われないように、買うのには、やっぱり計画を・・、なぜ買うか、買ったらこういう計画で、こういうふうにもっていきますよと・・、町長はあそこらへんを三聖苑と一体となった、そういう構想があるわけですので、観光客が入ってくれば町も潤う。

例えば、年間500万円が赤字だとしても、町が1000万円の観光客が来たおかげがあったら、

あそこが500万円の赤字でも500万円のプラスになるわけですから、そういう相乗効果を出せるような利用をしてください。

そして、私は橋本先生ともいろいろお話もします。そして、やっぱり今度10月にもクラフト展とかありますし、この前、上勝町で葉っぱ産業をやっていますけれども、そこで売れなくなった葉っぱを今度いろいろなんか葉っぱで色を付けてストールとかをやっているわけですよ。それの・・、上勝町と連携している女の人ですけれども、その人が松崎は桜葉があるねと、桜葉の葉っぱを使ってそういうのができないかと言われて、私は先生にも話しましたし、そうしたら、学校のいま美術をやっている先生が「おもしろい。子どもたちにもやらせてみようか」とか、そういうことも言ってくれました。

そういう中で、できれば、泥団子がありますよね。そういうのと一緒に体験なんかもできるんじゃないかと、そういう一体となった・・、ですから、維持管理・・、維持費は、そういうコーヒーとかを来てもらって飲んでもらった中で出していく、管理費もそういう中でやっていく、そういう計画をしっかりと立てて、大沢温泉ホテルを町で管理できるような体制、町民から「なんだあんなお荷物を買って」と言われないような、そういうことをしっかりとやってもらいたいと思います。

最後１分です。町長、そのことに対して答弁をお願いします。

○町長（齋藤文彦君）　依田邸と三聖苑と、今度内陸フロンティアが来ますので、松崎の本当にまちづくりの中心の中心になる所ですので、ちゃんとした計画を立てて、議員の皆さん、町の皆さんに納得してもらうようなことをやらなければいかんなと思っているところでございます。

○議長（稲葉　昭宏君）　最後、まとめて短くやってください。

○５番（藤井　要君）　町長とお話しまして、かなり前向きなそういう考えが伝わってきたと思います。

ですから、私らも応援するところは、足を引っ張るようなことはいたしません。ですから、ちゃんと町民の目線に立って、町長、そして前にも言いましたように町民に発信してください。私はこういうことをやりたいんだと、ぐいぐいと引っ張るような、そんな町長になってもらいたい。

これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君）　以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前１０時２５分）